



内山美穂子 議員  
(拓政会)



新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」

を重視しており、これからの学校図書館には、学びを効果的に進める基盤としての役割が一層期待されている。幕別町においては、国が定める学校図書館図書標準の90%以上を達成しているものの、現状に合わない古い書籍が散在するなど子どもたちが正しい情報を見つけて活用するには適さない状況もある。学校図書館は、読書の楽しさを伝えることはもちろん、主体的な学びの場として、時には図書ボランティアや地域の人たちの協力を得ながら、子どもの豊かな育ちを支援する場として重要な役割を担っていると考え、以下について伺う。

(1) 町内学校図書館の活用状況および公共図書館との連携は。  
(2) 蔵書構成および更新基準についての考えは。  
(3) 小学校への蔵書管理データベースの導入予定は。  
(4) 学校司書を配置し、ソフト面の

**問** 「学びの場」として積極的に活用される学校図書館の環境整備を  
**答** 町図書館と連携を図りながら環境整備に努め、学校司書の配置を検討していく

読書環境を充実させる考えは。

**教育長**(1) 町図書館が昨年11月に実施したアンケート調査の結果では、「普段、どのくらい学校図書館へ行きますか」の問いに対して、「月に1回以上行く」と答えた児童生徒の割合は、小学生72・8%、中学生47・3%となっている。公共図書館との連携では、学校からの要請に応じて、町図書館が学校図書館に関する相談や学校訪問を実施している。小学校6校と中学校4校では、学校図書館のリフォームやディスプレイの改装のサポートなど、利用の活性化につながるよう支援している。また、町図書館において作成した「学校図書館運営の手引き【小学校編】」を小学校に配付し、中学校では、町図書館と同じシステムにより蔵書管理を行い、担当教員や生徒の負担軽減を図るため、町図書館職員が図書の登録を行っている。

(2) 児童生徒や教職員のニーズに応じた偏りのない調和のとれた蔵書

構成となるよう、校内組織や司書教諭が中心となり、推薦図書や児童生徒からのアンケートなどの希望を基に、計画的な購入に努めている。更新基準は、「学校図書館図書廃棄規準」を参考に、図書の廃棄と更新を行っている。町図書館職員が、古い書籍や時勢に合わない書籍、破損等により利用できなくなった図書等の除架や除籍の協力を定期的に行うなど、引き続き支援していく。

(3) 蔵書管理の機能等を備えた図書館システムは、平成18年9月から町内の中学校に「地域イントラネット基盤施設整備事業」を活用して順次導入を進め、学校図書館と町図書館とのネットワークも併せて整備した。小学校への導入は、今後の図書館システムの更新計画に合わせ、その必要性や効果について調査、研究していく。

(4) 各学校では、学校全体で児童生徒の読書意欲の向上や利用促進の取組を行っており、引き続き町図書館と連携を図りながら運営に對

する支援を継続する。また、「第3期幕別町子どもの読書活動推進計画」に子どもの活動状況に合わせた図書館運営ができるよう、学校司書の配置を盛り込んでいる。



学校図書館  
(札内北小学校)

**再質問** 「ふるさとに誇りを持つ子どもを育む教育」を掲げているが、学校図書館には地域を知る資料が大変少ない。誇りを持つことは「地域を知ること」から始まる。学校図書館の地域資料の充実を。

**答** 郷土資料の充実は重要と認識している。町図書館の司書と各学校の連携を図りながら、地域資料の整備に関するノウハウを学校図書館運営に役立てていただきたい。